

今月の逸品

NO.20 2016.11

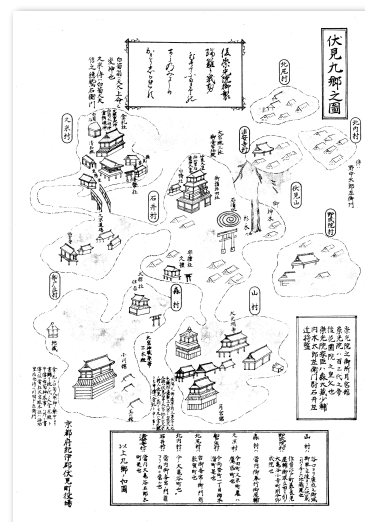


京洛地図（伏見九郷之図）

江戸時代

82.4 cm × 89.1 cm

中世の代表的な皇室領である伏見荘に関して、それを構成する村の位置を模式的に示した彩色の絵図。山村・即成院村・森村・船戸村・北尾村・北内村・久米村・石井村・法安寺村の9村を島状に表現し、その中に建物や寺社を描くもので、下部には現在（江戸時代）の地名との対応関係を記載している。後崇光院の和歌を載せることや、後崇光院の御所である月宮館を描き、そこに家臣の名などを注記することからみて、後崇光院（1372-1456）のころの様子を想定して描かれたものであろう。後崇光院（＝伏見宮貞成親王）は、伏見荘を継承してここに居した人物で、息子が後花園天皇として即位したことから、法皇として遇された。これまで「伏見九郷之図」については、西方寺所蔵資料、三雲氏所蔵資料、『伏見町誌』掲載資料(原図不明)の3種の存在が紹介されてきた。本資料は、描写方法が西方寺所蔵資料に近似するものの、現在地名の記載が存在する点でこれとは相違している。



図：『伏見町誌』（1931年）掲載の「伏見九郷之図」